

年間テーマ：旅する神の民とミサ～喜びと希望を共に！

第2回 開祭

キリストは弟子たちに、「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである」（マタイ 18・20）と言われました。このことばが示すように、ミサがささげられるためには、キリストの招きに答えてともに集う共同体が必要です。こうして「一つに集まった信者が一致することと、神のことばを正しく聴き、感謝の祭儀をふさわしく行うよう自らを整えること」（「ローマ・ミサ典礼書の総則」46）が、ミサの「開祭」の目的です。今回のセミナーではこの開祭をテーマにして、改訂された式文や会衆が果たす役割などについて一緒に考えてみたいと思います。

1. 開祭の要素と目的

「ことばの典礼の前に行われる式、すなわち、入祭、あいさつ、回心の祈り、いつくしみの賛歌（キリエ）、栄光の賛歌（グロリア）、集会祈願は、開始、導入、準備の性格をもっている。

これらの目的は、一つに集まった信者が一致することと、神のことばを正しく聴き、感謝の祭儀をふさわしく行うよう自らを整えることにある。

典礼書の規定に従ってミサと結びつけられているいくつかの祭儀では、開祭は省かれるか、特別の方法で行われる。」（「ローマ・ミサ典礼書の総則」46、以下「総則」と表記）

2. 入祭の歌、行列、祭壇の表敬、あいさつ

1 入祭の歌と行列

会衆が集まると入祭の歌を歌う。その間に、司祭は奉仕者とともに祭壇へ行く。

祭壇の表敬と会衆へのあいさつ

祭壇に着くと、司祭は奉仕者とともに手を合わせて深く礼をする。続いて、司祭は祭壇に近づき、両手で祭壇に触れながら深く礼をして祭壇に表敬する。必要に応じて十字架と祭壇に献香する。その後、司祭は奉仕者とともに席に行く。入祭の歌が終わると、司祭は会衆に向かって次のことばを唱え、司祭と信者は立ったまま自分に十字架のしるしをする。

父と子と聖霊のみ名によって。

会衆は答える。

アーメン。

「会衆が集まると」ミサが始まる

「（洗礼を受けた人は）教会がどのようなものであるのかを十全に明らかにするために集まることが大切です。教会とは、「呼び集められたもの（エクレーシア）」であり、「散らされている神の子たちを一つに集めるため」（ヨハネ 11・52）に自らのいのちを差し出した、復活した主によって呼び集められた集会です。」（教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡『主の日』31）

入祭の歌の目的：祭儀を開始し、会衆の一致を促し、会衆の思いを典礼季節と祝祭の神秘に導き、司祭

と奉仕者の行列を支えること（「総則 47」

歌の選択：ローマ聖歌集（*Graduale Romanum*）の交唱を詩編とともに。聖なる行為、日もしくは季節の性格に適した歌（「総則」48）

祭壇：イエス・キリストの象徴

祭壇への表敬の方法→日本の教会のための適応（「総則」49）

2 続いて、司祭は手を広げて会衆にあいさつする。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんとともに。

会衆は答える。

またあなたとともに。

または

父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が皆さんとともに。

会衆は答える。

またあなたとともに。

または

主は皆さんとともに。

司教は、この最初のあいさつのとき、「主は皆さんとともに」の代わりに次のように言う。

平和が皆さんとともに。

会衆は答える。

またあなたとともに。

3 司祭、あるいは助祭または他の奉仕者は、簡潔なことばでその日のミサについて信者に説明することができる。

「入祭の歌が終わると、司祭は自席で立ち、会衆全体とともに十字架のしるしをする。それから司祭はあいさつをして、集まった共同体に主の現存を表す。このあいさつと会衆の応答によって、ともに集まった教会の神秘が表される。」（「総則」50）

「父と子と聖霊のみ名によって」（マタイ 28・19）

「主イエス・キリストの恵み、神の愛…」（二コリント 13・13）

「主イエス・キリストによって、神である父からの…」（ローマ 1・7、一コリント 1・3 など）

「主は皆さんとともに」（ルツ 2・4）－「また司祭とともに」（ガラテヤ 6・18、二テモテ 4・22）

3. 回心の祈り

4 回心の祈り

司祭は典礼暦に合わせて、たとえば次のようなことばで信者を回心へと招き、一同は回心の祈りを唱える。
主日、とくに復活節の主日には、通常の回心の祈りに代えて、洗礼の恵みを思い起こすために「水の祝福と灌水」(91 頁以下参照)を行うことができる。

皆さん、聖なる祭儀を行う前に、わたしたちの罪を認め、ゆるしを願いましょう。

(例文省略)

回心の祈り 一

短い沈黙の後、一同は手を合わせ、頭を下げて、一般告白の式文と一緒に唱える。

全能の神と、

兄弟姉妹の皆さんに告白します。

わたしは、思い、ことば、行い、怠りによってたびたび罪を犯しました。

聖母マリア、すべての天使と聖人、そして兄弟姉妹の皆さん、

罪深いわたしのために神に祈ってください。

続いて、司祭は罪のゆるしを祈る。

全能の神、いつくしみ深い父がわたしたちの罪をゆるし、

永遠のいのちに導いてくださいますように。

会衆は答える。

アーメン。

神のみ前における正しい人間関係 (マタイ 5・23-24)

「まずあなたがたの罪を告白したうえでパンを裂き、感謝をささげなさい」(『ディダケー』14)

「わたしはこのようなことを行って重い罪を犯しました。」(歴代誌上 21・8)

回心のときの一同の姿勢→日本の教会のための適応

回心の祈り 二

5 司祭は信者を回心へと招く。典礼暦に合わせた招きは 17 頁以下参照。

皆さん、聖なる祭儀を行う前に、わたしたちの罪を認め、ゆるしを願いましょう。

短い沈黙の後、司祭は次のように唱える。

主よ、あわれみをわたしたちに。

会衆は答える。

わたしたちはあなたに罪を犯しました。

司祭は唱える。

主よ、いつくしみを示し、

会衆は答える。

わたしたちに救いをお与えください。

続いて、司祭は罪のゆるしを祈る。

全能の神、いつくしみ深い父がわたしたちの罪をゆるし、
永遠のいのちに導いてくださいますように。

会衆は答える。

アーメン。

「主よ、お聞きください。憐れんでください。わたしたちはあなたに罪を犯しました。」（バルク 3・2）

「主よ、慈しみをわたしたちに示し、わたしたちをお救いください。」（詩編 85・8）

回心の祈り 三

6 司祭は信者を回心へと招く。典礼暦に合わせた招きは 17 頁参照。

皆さん、聖なる祭儀を行う前に、わたしたちの罪を認め、ゆるしを願いましょう。

短い沈黙の後、司祭、あるいは助祭または他の奉仕者は、聖書の朗読箇所や典礼暦に合わせて、次のようなことばを先唱し、会衆は「主よ、いつくしみをわたしたちに」、「キリスト、いつくしみをわたしたちに」を唱える。

先唱 打ち砕かれた心をいやすために遣わされた主よ、いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

先唱 罪びとを招くために来られたキリスト、いつくしみを。

会衆 キリスト、いつくしみをわたしたちに。

先唱 父の右の座にあって、わたしたちのためにとりなしてくださる主よ、いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

（例文省略）

「（主は）打ち砕かれた心の人々を癒し、その傷を包んでくださる。」（詩編 147・3）

「（主は）わたしを遣わして……打ち砕かれた心を包み…」（イザヤ 61・1）

「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招くためである。」（マタイ 9・13）

「復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に座っていて、わたしたちのために執り成してくださるのです。」（ローマ 8・34。エフェソ 1・19-20、コロサイ 3・1、ヘブライ 1・3、7・25 など参照）

ミサの回心の祈り：ゆるしの秘跡の効果をもつものではない（「総則」51）

4. いつくしみの賛歌

7 いつくしみの賛歌（キリエ）

いつくしみの賛歌（キリエ）が続く。6の「回心の祈り 三」を用いた場合は省く。

(一)

先唱	主よ、いつくしみを。	会衆	主よ、いつくしみをわたしたちに。
先唱	キリスト、いつくしみを。	会衆	キリスト、いつくしみをわたしたちに。
先唱	主よ、いつくしみを。	会衆	主よ、いつくしみをわたしたちに。

(二)

先唱	キリエ、エレイソン。	会衆	キリエ、エレイソン。
先唱	クリステ、エレイソン。	会衆	クリステ、エレイソン。
先唱	キリエ、エレイソン。	会衆	キリエ、エレイソン。

「信者が主に呼びかけてそのあわれみを願う歌」（「総則」52）

いつくしみに満ちた主をほめたたえる賛歌：「主よ、いつくしみを」

5. 栄光の賛歌

8 栄光の賛歌（グロリア）

規定に従って、一同は栄光の賛歌（グロリア）を歌うかまたは唱える。

天には神に栄光、
 地にはみ心にかなう人に平和。
 神なる主、天の王、全能の父なる神よ。
 わたしたちは主をほめ、主をたたえ、
 主を拝み、主をあがめ、
 主の大いなる栄光のゆえに感謝をささげます。
 主なる御ひとり子イエス・キリストよ、
 神なる主、神の小羊、父のみ子よ、
 世の罪を取り除く主よ、いつくしみをわたしたちに。
 世の罪を取り除く主よ、わたしたちの願いを聞き入れてください。
 父の右に座しておられる主よ、いつくしみをわたしたちに。
 ただひとり聖なるかた、すべてを越える唯一の主、
 イエス・キリストよ、
 聖霊とともに父なる神の栄光のうちに。
 アーメン。

「きわめて古い尊ぶべき賛歌であって、聖霊のうちに集う教会は、この歌をもって父である神と小羊に賛美をささげ、祈る。」（「総則」53）

「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」（ルカ 2・14）

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」（ヨハネ 1・29）

「聖なる方は、あなただけ。」（黙示録 15・4）

「あなたの御名は主、ただひとり全地を超えて、いと高き神であることを。」（詩編 83・19）

「イエス・キリストよ」での一礼は必要か？

礼は、人あるいはその人を示すしに対して敬意と栄誉が与えられることを意味している。礼

には二種類ある。すなわち、頭を下げる一礼と深く頭を下げる礼である。

(a)前者は、神の三つのペルソナ（父と子と聖霊）の名が同時に唱えられるとき、またイエス、おとめマリア、および、そのミサで祝う聖人の名前に対して行う。（「総則」275）

6. 集会祈願

9 集会祈願

栄光の賛歌（グロリア）が終わると、司祭は手を合わせたまま言う。

祈りましょう。

一同は司祭とともにしばらく沈黙のうちに祈る。

続いて、司祭は手を広げて集会祈願を唱え、会衆は結びにはっきりと唱える。

アーメン。

祈願前の沈黙：「自分が神のみ前にいることを意識し、心の中で自分の願いを呼び起こすようにするため」（「総則」54）

「この祈願によって、祭儀の性格が表現される。教会の古くからの伝統に従い、集会祈願は通常、聖霊において、キリストを通して、神なる父に向けられ…」（「総則」54）。

構造：神への呼びかけ → 神のわざを思い起こす → 嘆願 → 結び

〈本日（年間第 15 主日）のミサの集会祈願〉

すべてを照らしてくださる神よ、

あなたは、暗やみにさまよう人たちがまことの道に立ち帰るように、

真理の光を輝かせてくださいます。

洗礼を受けたすべての人が、信仰に反することを退け、

キリストに従って生きることができますように。

聖霊による一致のうちに、あなたとともに神であり、世々とこしえに生き、治められる御子、

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

7. キリストがともにおられることを意識しよう！

聖霊によって呼び集められた者（ecclesia）とともにおられるキリスト

「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」（マタイ 18・20）

「日曜日のミサで、キリスト者は復活の日の夕方に使徒たちが経験したことをとくに強く追体験します。その夕方、復活した主は、ともに集まっていた使徒たちに現れました（ヨハネ 20・19 参照）。」（教皇ヨハネ・パウロ二世使徒的書簡『主の日』33）

ことばとしるしによって

ことば：入祭の歌、あいさつ、回心、賛歌、集会祈願

しるし：ろうそく、行列、司式者と奉仕者、祭壇への表敬